

---

# 隣のベッド

kyou

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

隣のベッド

### 【NZコード】

NZ86220

### 【作者名】

k y o u

### 【あらすじ】

友達のいない山本勇人は  
同じ病室の隣のベッドにやつてきた

カイトと仲良くなり…

(前書き)

初投稿です。  
けつこう短いので、気軽に読んでください。

窓から差す光が眩しくて目を覚ました。

山本勇人は、生まれつき心臓が弱い。

だから、学校にもろくに行つてないし、当然のことながら友達もない。

と言うより、小さい頃から入退院を繰り返している勇人は友達の作り方を知らないのだ。

ならば、同じ病室の人と仲良くすればいいじゃないかと言う人がいるが、勇人はなぜか仲良くなようとするとその人に意地悪をしてしまう。

だから勇人には友達がない。

「そういえば今日は隣のベッドに……」

ガチャ。

ドアの開く音がした。

そう、今日は隣のベッドに新入りがくる日だ。

「おす新入りー」

最初に話し掛けたのは向かいのベッドの鈴木だった。新入りは、

「カイトと言います、よろしく」

と、返した。

カイトは勇人の方を向いて、この眩しそうな朝日より眩しいスマイルを浮かべて、

「よろしく」

と、挨拶をした。

勇人は今度こそという思いをこめて、出来るだけ愛想よく

「よろしく」

無理に笑顔を作ったので、少し笑顔が引きつったかなと思い、カイトの顔をみた。

すると、カイトはいきなり顔を近付けてきた。

そして耳もとでボソッと、

「お前今日から俺の奴隸ね。」

背筋が凍る様な冷たい声だつた。

驚いた勇人は耳を疑つた。

カイトの顔をみると、さつきと変わらず眩しすぎる笑顔だつたので  
すぐに空耳だと気付いた。

それから、カイトと勇人は友達になつた。  
勇人にとって初めての友達だつたから、勇人はカイトの言つ事を何  
でも聞いた。

ある時勇人がやつていたRPGのゲームをやりたいとカイトが言つ  
たので、やつてている途中だつたが借してあげた。

ゲームを借した一週間後に勇人は退院した。

それからさらに一週間たつたある日、ふとあのゲームの事を思い出  
出した勇人は、カイトの見舞いに行つて、ついでに返してもらおう  
と、病院へむかつた。

受付の人に一応病室を聞いてみた。

少し間が空いて、

「山本カイトさんの知り合いの方ですか？」

ときかれ、勇人はそういうえばカイトの苗字を聞いた事が無かつた  
事に気付いた。

勇人はカイトはカタカナかと聞いた、

「はい」

と、答えたので、間違いないと思つた。

「で、どこの病室ですか？」

勇人が聞くと受付の人はまた間を空けて、俯き加減で

「カイトさんは……先日お亡くなりになりました。」

あまりに突然の事だつたので、勇人は衝撃をうけた。

「あの…もしかして、山本勇人さんですか？」

「は、はい」

勇人はなぜ受付の人が自分の名前を知ってるのか、疑問に思つた。

「カイトさんからの言伝でこれを渡して起動するようにと…」

渡されたのは借したゲームだった。

起動すると、ファイルがいくつもあり、それに名前がついていた。

最初のデータは、ファイル名が「お」で、四人パーティの勇者の名前も一文字ずつで、

「ま」「え」「が」「か」だった。

次はファイル名が「わ」で、パーティが

「り」「に」「シ」「ネ」

「おまえがかわりにシネ」

とっさに振り向いた。

誰もいなかつた。

勇人はモヤモヤした気分で帰る事となつた。

電車を待つてゐる間に今度はなんとなく後ろを見た。  
そこには、死んだはずのカイトが立つていた。

カイトは相変わらず眩しそうな笑顔で、

「奴隸だから代わりに死んでくれるよな」

勇人は突然後ろから押されて線路に飛び込んだ。

電車がいやな音をたてた。

(後書き)

ほんつと素人文ですみません。  
よければアドバイスなどください?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8622o/>

---

隣のベッド

2010年11月12日10時34分発行